

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、12月8日(土)で、「ホオジロたちの暮らしかた」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、12月2日(日)の9:30からです。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→藤棚→手賀沼遊歩道→けやき広場でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2018年11月10日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：16人(大人12人、子ども4人)
- 市民スタッフ：6人(石原直子、伊東茂子、木村稔、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1人(斉藤安行*) *今月の案内人

観察した生き物の記録

【鳥類】カモ科：オカヨシガモ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：チュウヒ/カワセミ科：カワセミ(声)/キツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声)/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ(声)/アトリ科：カワラヒワ、シメ/ホオジロ科：ホオジロ、オオジュリン(声)/(家禽および外来種)コブハクチョウ、ドバト

【は虫類】ニホンカナヘビ、アオダイショウ(幼蛇)

【昆虫】バッタ目：エンマコオロギ*(声)、ツツレサセコオロギ*(声)、モリオカメ*(声)、カネタタキ、クサヒバリ(声)*、マダラスズ(声)*、シバズ(声)*、アオマツムシ(声)*、オンブバッタ、セスジツユムシ*、サトクダマモドキ*、ツチイナゴ、コバネイナゴ、モリチャバネゴキブリ*、オオカマキリ(卵)、ハラビロカマキリ(卵)/コウチュウ目：クロウリハムシ*、センチコガネ*、ダンダラテントウ*、キマワリ(幼虫)、オジロアシナガゾウムシ/チョウ目：モンシロチョウ*、キタキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ*、ウラギンシジミ、キタテハ、ジャコウアゲハ幼虫*、ホタルガ*、ホシホウジャク*、タケカレハ(羽化後の繭)*、シロオビノメイガ*/ハチ目：ハグロハバチ(幼虫)*、シロスジトゲヒメバチ*、オオスズメバチ、アシナガバチの仲間/ハエ目：キンバエ*、ニクバエの仲間*、ハナアブの仲間/ゴキブリ目：モリチャバネゴキブリ幼虫*/カメムシ目：ヒメジュウジナガカメムシ、ヨコヅナサシガメ/アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ(幼虫)

【クモ類】ナガコガネグモ、ジョロウグモ、オニグモ、クサグモ

【その他動物】甲殻類：サワガニ、スジエビ/軟体動物：ヒメタニシ/扁形動物：コウガイビル/環形動物：ミミズ/虫瘤：ヨモギクキワタフシ(ヨモギタマワタバエ)

【植物(花)】ツユクサ科：ツユクサ/イネ科：セイバンモロコシ/アカバナ科：コマツヨイグサ/バラ科：ウメ*、オオシマザクラ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ/スミレ科：スミレ/アブラナ科：ナズナ、イヌガラシ/タデ科：ミズヒキ、ボントクタデ、ミエソソバ/ナデシコ科：ウシハコベ/ハゼラン科：ハゼラン*/ツバキ科：チャノキ、ツバキ、サザンカ/キク科：コシロノセンダングサ*、コセンダングサ、ヒメジョオン*、ツワブキ*、オオジシバリ、アキノノゲシ*、ハハコグサ、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ/セリ科：セリ*

【植物(果実)】センリョウ、シロダモ、ムクノキ、カラスウリ、エゴノキ、ヘクソカズラ、クサギ、イシミカワ

(注) *印は10月28日の下見の時に確認した種。

11月の観察アルバム



今回は、てがたんコースを歩きながら、日本人が古くから親しんで来た伝統色を探しました。観察会の時間内では鳥の色をじっくり確認することはできませんでしたが、センリョウやシロダモの赤い果実、クスノキの黒い果実、クサギの赤い萼と黒果実のコントラスト、ツククサの青い花やセイヨウタンポポの黄色い花など、さまざまな植物の色は観察できました。翡翠色（ひすいいろ）の羽毛を持つカワセミの姿は次回に期待しましょう。



鳥博交差点付近のカキを食べに来たムクドリ



①鳥の博物館玄関前の軒下のウスバカゲロウ幼虫の巣（蟻地獄）。



②道路沿いのクズの葉の上にあったオジロアシナガゾウムシ。



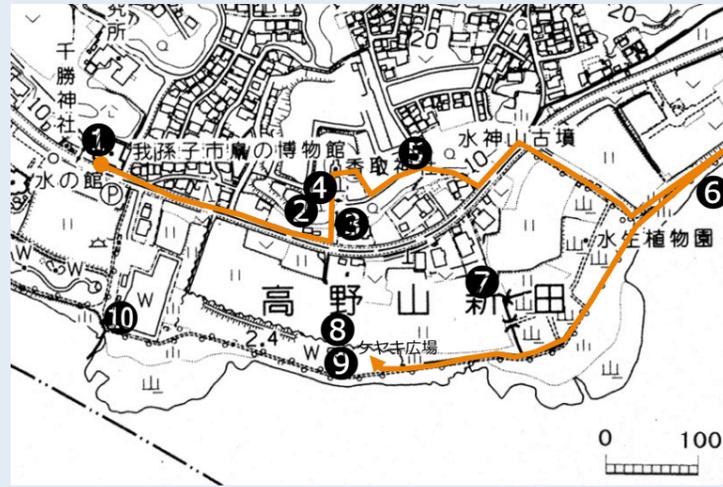
③香取神社参道脇の枯れ木の下にあったキマワリの幼虫。



④湿った参道にいたコウガイビル（扁形動物）。ナメクジやカタツムリやミミズを食べます。



⑤濃紅色の萼（がく）と光沢のある藍色の果実のコントラストがあざやか。果実を使った染め物は水色に染まります。



歩いたルートと観察した生き物



⑥冬鳥のユリカモメが見られました。写真は、尾羽に黒い帯が残る今年生まれの鳥です。



⑦遊歩道沿いのモズ（その1）。藤棚付近に冬のなわばりを構えたオス。



⑧遊歩道沿いのモズ（その2）。けやき広場付近に冬のなわばりを構えたオス。



⑨アオダイショウの幼蛇が、樹木の洞の中にいました。そろそろ冬越しの準備でしょうか。



⑩遊歩道沿いのモズ（その3）。釣り堀付近に冬のなわばりを構えたメス。

今月の鳥 カワセミ ブッポウソウ目カワセミ科

探鳥会でひときわ目を引くカワセミの羽毛のコバルトブルーは、実は色素によるものではありません。羽毛が3層のケラチン層からなり、これに太陽光が当たると表層と中層で青い光が反射され、それ以外の色の光は深層のメラニンに吸収されることによって発色しています。羽毛の構造にもとづく発色（構造色= こうぞうしょく）は、色素の発色とちがい、色あせることはありません。

また、槍のように細長い嘴や短い脚などカワセミ特有の形態は、水中にダイブして餌の小魚を捕えたり土手に穴を掘り子育てすることに適しています。



てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。